

評価シート（年度評価）

徳川園の管理運営状況

1 基本情報

＜所管局：緑政土木局＞

指定管理者名	徳川の杜グループ		
主な業務内容	徳川園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市東区徳川町1001		
評価対象期間	令和3年4月～令和4年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和4年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項	
管理体制及び協働	1 管理体制	職員配置	○	職種に応じた研修を受講するほか、技師会議などで作業内容等情報・知識の共有を行っている。 ガイドボランティア向け園内勉強会を行うなどボランティアの質の向上に努めた。	
		緊急時の体制			
		人材育成等			
	2 協働	市民等との協働			
維持・管理運営等	1 維持管理	園内清掃	◎	高頻度の清掃、落ち葉清掃を実施した。水質保全のために水中ポンプの調整やスイレンの枯葉取りを随時実施した。蜘蛛の巣の除去などきめ細かい清掃がされている。 老朽化したポンプの交換工事や井水揚水管の引上げ点検の結果、腐食していた鉄管のステンレス化工事を実施し、水景施設の適切な維持に努めた。 牡丹、花菖蒲における土壌管理及びかん水等の生育状況に合わせたきめ細かい管理を行った。秋の主役のモミジも1本ずつに合わせた剪定、施肥等を実施した。 維持管理にあたっては、利用者の安全を重視し、環境にも配慮することを心掛けている。	
		建物・設備の管理			
		保守・点検・修繕			
		植物管理			
		管理水準の維持			
		関係書類の調製・保管			
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	○	コロナ感染症対策・掲示などによる注意喚起に努め、催事も安心安全に実施できるよう工夫した。 窓口職員も熟練しており、多種多様な券種・問い合わせにも速やかに対応している。受付が混雑しないよう、改札窓口の外にスタッフが立って声がけをして対応している。 隣地からの剪定等の要望に迅速に対応している。	
		利用者ニーズの把握と反映			
		利用者サービス向上策			
		接客・接遇向上の取組み			
		苦情・要望に対する適切な処理			
		個人情報の適切な管理			
	3 この施設特有の管理	庭園の管理	◎	管理計画を立て松の剪定を実施した。花菖蒲は特に江戸期のものを、また牡丹も常に品種の充実を図っている。 徳川園植物中長期計画に基づき近世武家庭園の様式・特色を踏まえ、苔・笹等を継続植栽し、垣根等の維持に努めた。 砂利の補充を行った砂利園路に砂紋を引いたり、ライトアップの色を季節によって変化させたりする取組みを職員で行った。 年間を通して、園内ポイント箇所に季節に合った花鉢や盆栽を設置するとともに、花餅や軒菖蒲など季節感のある装飾・展示を行った。また待合室やトイレ内の一輪挿しも継続している。	
		めざす公園像への取組み			
		美術館・蓬左文庫との連携			
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策			
		イベント等の実施			
		利用者への広報・情報提供の実施			
		利用者数の増加			
	5 収納金の処理業務	現金等の取扱い	○		
		関係書類の調製・保管			
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	自主事業の収益を指定管理料に還元し、ポンプの交換など主要な修繕を実施することができた。	
		集客対策への効果			
		自主事業の収支及び還元			
収支	1 収支	経費節減策	○	直営作業により様々な修繕を行ったほか、夜間開園時の竹灯籠作成や観月会の和船装飾なども行った。	
		年間収支			
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○		
		事業計画との比較分析			

【総合評価】

ボタンの新植や補植について前年度から不織布大鉢への植付け等の工夫をしたり、ハナショウブについても品種増など計画的な改善を進め、花の魅力づくりに努めた点は評価できる。
コロナで大きな影響を受けながらも、感染対策をしっかりと行いながら工夫してイベントを実施するなど、利用者の安全確保とサービスの維持に努めた点は評価できる。
植物管理において、松管理計画に基づいて3タイプの剪定を行うなど、徳川園らしい庭園づくりが着実に進められ、様々な工夫をしながら日本庭園に必要とされるきめ細やかなレベルの高い維持管理を実施した点は評価できる。
蓬左文庫企画展において徳川園技術者がハナショウブの講話を実施したことは人材育成面での効果発現と連携事業の定着が図られた。今後も、美術館、蓬左文庫と隣接しているポテンシャルを生かし、イベントやPR活動を含め、連携事業を拡充し、さらなる魅力増進と利用促進を図りたい。

施設の現状

徳川園

施設の現状	施設概要							
	名古屋城本丸の東約3kmの地にある徳川園は、徳川御三家筆頭である尾張藩第二代藩主光友が、元禄8年(1695)に自らの隠居所として大曽根屋敷を造営したことを起源としています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られましたが、明治22年(1889)からは尾張徳川家の邸宅となりました。昭和6年(1931)名古屋市は、第十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた後、改修整備を行い、翌年「徳川園」として一般公開しましたが、第二次世界大戦の大空襲によってほとんどの建物や樹林などが焼失してしまいました。 戦後、現代的な都市公園として改修し、市民に利用されてきた徳川園は、平成13年(2001)から日本庭園として再整備を行い、平成16年(2004)に開園しました。 徳川園は、矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る大きな岩組みが特徴で、変化に富んだ景観を劇的に展開する構成としています。 なお、平成26年10月7日に「徳川園黒門」「徳川園脇長屋」「徳川園塀」「徳川園釣瓶井戸」「蘇山荘」「蓬左文庫旧書庫(教育委員会所管)」が、国の登録有形文化財に登録されました。							
	市の収支状況(千円) (3年度決算見込み額)							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	127,315	-	127,315	40,609	7,818	78,888	127,315	—
	特記事項							
	平成22年度から指定管理者制度を導入							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	入園者数		人	337,986	330,850	147,740	188,133	
	利用者1人あたり運営費		円	370	385	862	677	
	特記事項							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載